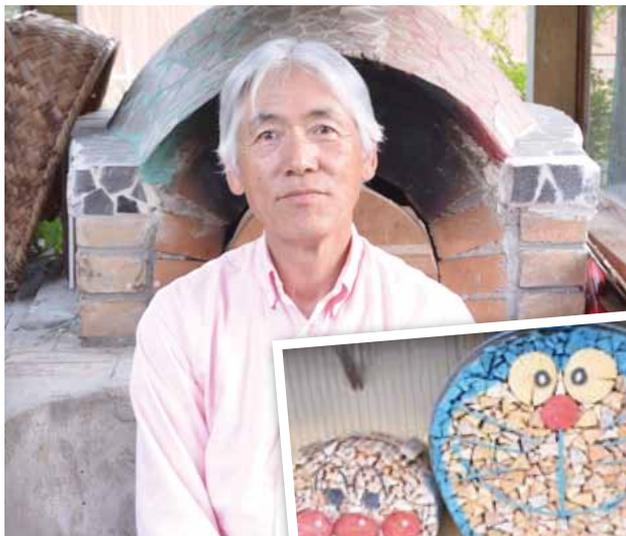


オッサン ショウオが行く

多岐にわたるご活躍で町を支える！ ごとう あつみ **後藤 厚見さん** (やまびこファーム510代表)



プロフィール

日南町上石見出身

日南町を離れ会社員として働き、53歳で早期退職し上石見に戻り農業を始める。地域農業の集落営農法人化で、理事を務める他、長期にわたる人権擁護委員、老人介護施設等での園芸福祉活動、木材を使ったワークショップ、薪アート等多岐にわたりご活躍されている。

●所持資格

- ・園芸福祉士・グラウンドワークパートナー・Microsoft MCP
- ・インターネット検定・情報処理技術者・電気通信主任技術者
- ・工事担任者(デジタル第一種)・工事担当者(アナログ第一種)
- ・第四級アマチュア無線技士・危険物取扱者



薪アートが話題になりましたが、 どのような経緯で作ったのが

鳥取大学の教授から「災害が起きた時のことを考えて、薪を備蓄することが必要」と聞いて薪を備蓄し始めましたが、単に備蓄するのは面白くないと思いました。必要なくなった荷馬車の金輪があったのでアンパンマンやドラえもんを作りました。町内でこの取り組みを広め、あちこちで薪アートがみられるようになれば、水木しげるロードのように町おこしになるのではないかと考えています。



様々な活動をされているが、今 までの中で「難しかったこと」「大 切にしていること」は

難しかったことは、人を動かすことです。個性を活かさないといけないし、相手の気持ちを考えすぎると仕事がまわりません。大切にしていることは、自分の好きなことは貫きたいということです。夢や楽しみを常に持っています。



最後に、今後の若い世代に 伝えたいことは

現在、新型コロナウイルスの感染で外出自粛等今までになかったことが起こっています。そんな中で是非田舎を再認識し、地元定住を目指してほしいということです。田舎でも工夫や努力で何でもできます。私自身若い方と話をするようになって挑戦したいことが広がりました。お互いに知恵を出し合っていきたいです。



日南町に戻ってこられた理由は

30年近く広島や東京で働いたり、趣味の海外旅行に行ったりと外の世界を観てきました。きっかけとしては転勤で米子へ異動となったことです。農作業の手伝いなどで頻りに地元へ帰るようになり、里心がつきました。丁度その頃、子ども達が全員自立し一区切りついたことと、農業の大変な状況を目の当たりにし帰農しようと思ったことが理由です。



農業の大変な状況とは

人手不足です。農業をしている方が少ないです。特に上石見では20世帯もないくらい。田植えだけでも苗を渡す人、田植機を運転する人、苗を運ぶ人と3人位は必要ですが、人が揃いません。先日も人が揃わず、元気なお歳寄りの女性の方に手伝っていただきました。そのような状況もあり、組合を作り法人化や、農作業受託など取り組んできました。



園芸福祉について

地域のためにできることがあればしたいという思いがあり、英国初のグラウンドワーク研修に参加する機会を得て研修企画に応募したところ、選ばれ起業化することになりました。そうして「車椅子イキイキ菜園」という事業を立ち上げました。これは老人介護施設の車椅子生活者や足腰の弱った方々に座ったままで野菜や草花を栽培し、楽しんでいただく為の事業です。高さのあるプランターに苗を植え提供しています。事業化を目指しましたが難しく現状はボランティアでの活動です。

